

会津坂下町立坂下東幼稚園



遊戯室の窓から小学校、さらには飯豊連峰が見える(写真右側には子供の家が並ぶ)



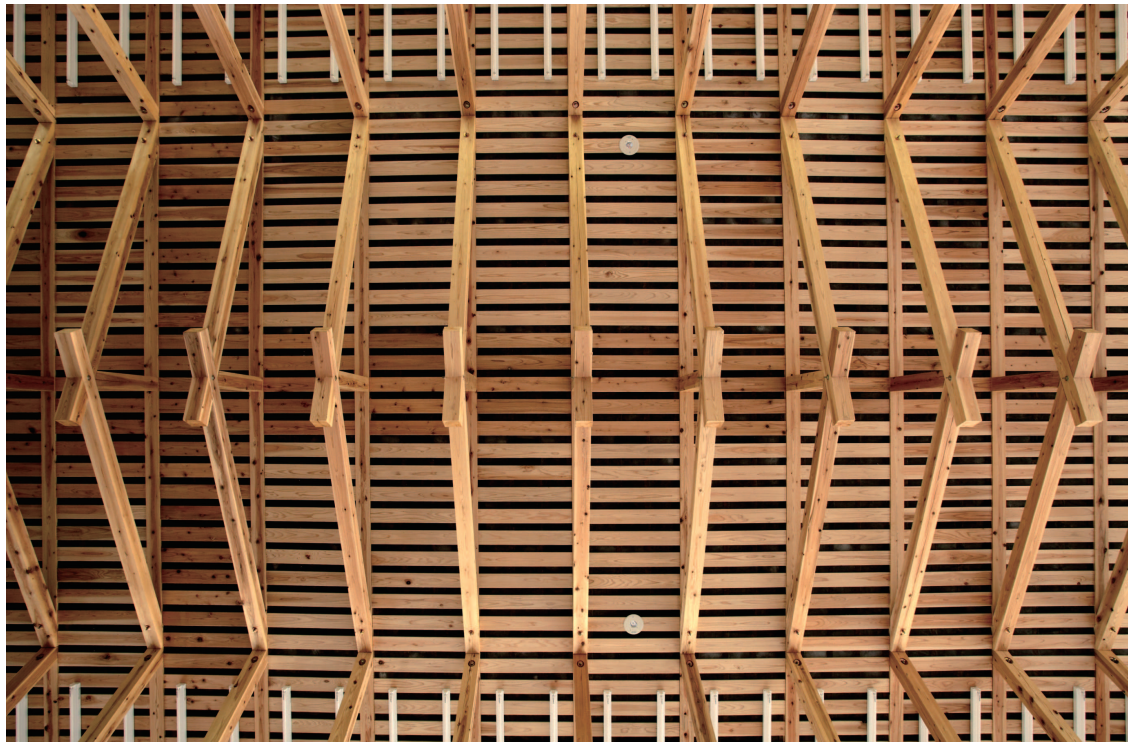
園庭とつながるガラス屋根のアプローチ



園庭と命の広場を結ぶコンクリートの階段ブリッジ



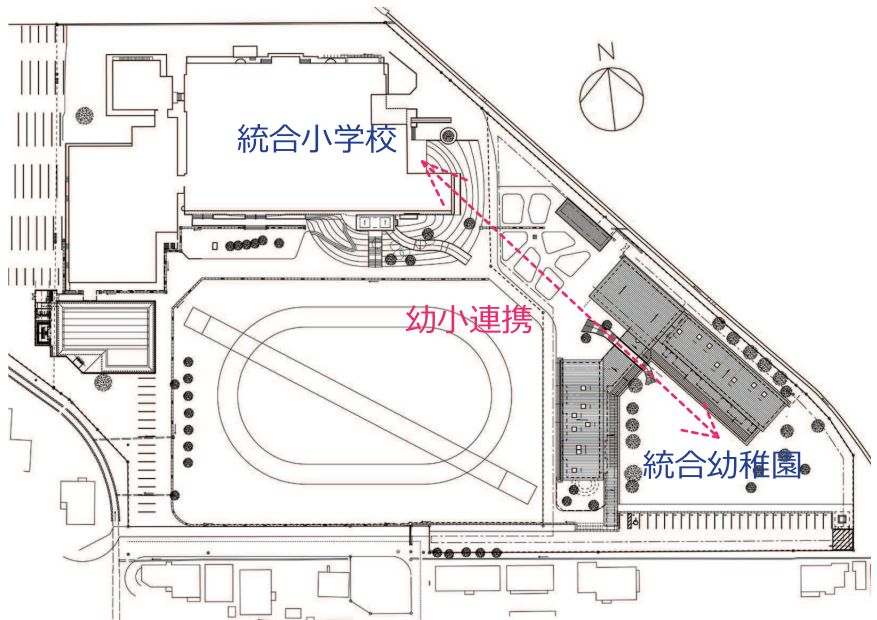
丸太の方杖付柱と格子梁が支える保育室



遊戯室天井の見上げ（4寸角材のトラス構造）



デン(子供専用の小空間)



配置図

【建築概要】

【建物名称】 会津坂下町立坂下東幼稚園
【所在地】 福島県河沼郡会津坂下町字上口705
【用 途】 幼稚園
【規 模】
構造 木造 一部 鉄筋コンクリート造
階数 地上1階
敷地面積 8,049.23 m²
建築面積 1,739.49 m²
延床面積 1,424.68 m²

【主な外部仕上】

屋根 カラーガルバリウム鋼板
外壁 スギ 羽目板釘貼 t=15ノ上 押縁 保護塗装
カラーガルバリウム鋼板

【主な内部仕上】

床 スギ 縁甲板 t=30 生地仕上
壁 スギ t=12 貼 生地仕上
天井 不織布貼ノ上 スギ W=120 @180

【設計体制】

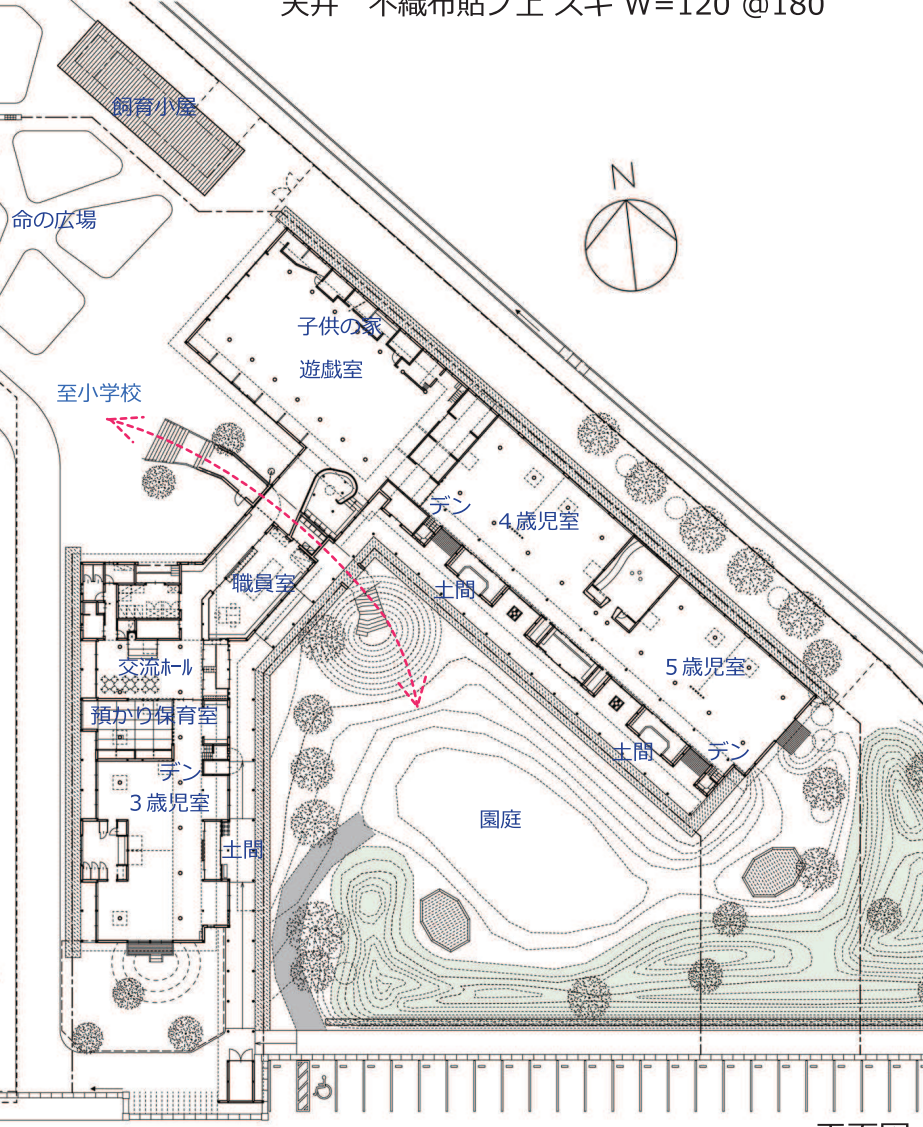
本設計は既存中学校を統合小学校へ改修(木質化)し、同敷地内に統合幼稚園を木造で新築するという幼小連携プロジェクトで、(公社)日本建築家協会福島地域会の建築家8人でプロジェクトに参加し、設計しました。

【技術支援ワークショップ】

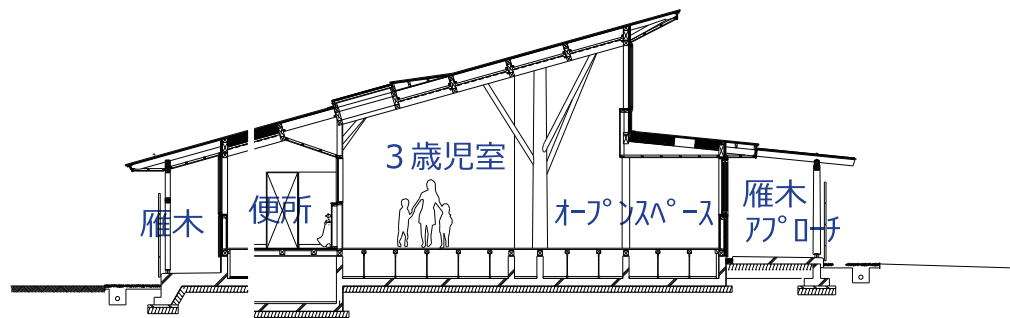
基本設計時には、学校関係者のワークショップの他に「木を活かす建築推進協議会」の技術支援を受け、建築計画、木構造、地域材活用、音環境のテーマについてワークショップを開催しました。集材に頼らない一般材を活用した大空間の構造設計を採用する他、地域材活用のワークショップでは、「地場産材で地元の手がつくる地域に根付いた施設づくり」を目指して、木材を前年度に分離発注し、先人たちが植えてた町有学校林を伐採、丸太の皮をむいてそのまま柱や方杖に使用しました。地場産の木材そのものの形に触れ感じる事で、子供たちが木を知り、木への興味を持つことを期待しています。

【幼稚園設計主旨】

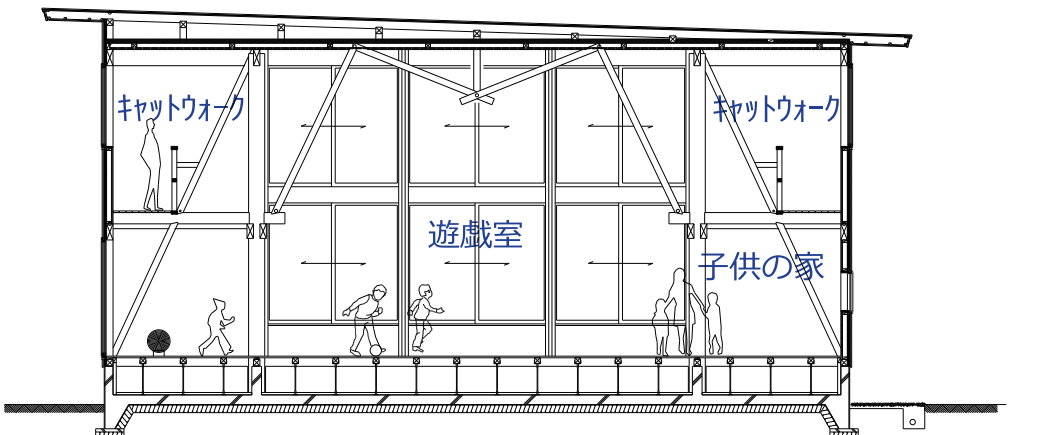
職員室や遊戯室を中心として3歳児棟と4・5歳児棟で園庭をV字型に挟み、それぞれの視線が通る配置としました。ガラス屋根の架かった雁木がアプローチ空間であり、悪天候時の遊び場（冬期は杉板で雪囲い）となります。幼稚園の園庭と同一敷地内にある小学校の共有広場をつなぐ階段ブリッジは、防火区画を兼ねた鉄筋コンクリート造で、園舎をまたいで幼稚園と小学校の活発な連携を図ろうとしています。内部は地場産の丸太と一般材（4寸角）を使い、構造的合理性に基づいた存在感ある木造空間の中に、子供のスケールに合わせた多様な小さな空間を対比的に共存させています。また竣工時、無塗装だった厚い杉板の床材を子供たちが（保護者が作った）米ぬか袋で磨き続けて2年目になりますが、いい匂いが出てきました。



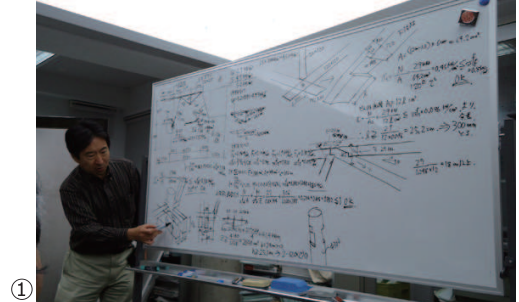
平面図



保育室 断面図



遊戯室 断面図



写真①：技術支援ワークショップによる地場産材を使った構造架構の検討（構造家 稲山正弘氏）
写真②：伐採前の町有学校林
写真③：伐採後の丸太（丸太の芯が変色する飛び腐れにより丸太材のまま使用）
写真④：丸太と一般材重ね格子梁の建て方状況
写真⑤：天井の杉板を30%のスリットをあけて貼り、断熱材を兼ねたヒド-スライバ-により吸音を確保